



病院管理研修所の発足

1) 昭和24年6月1日に病院管理研修所が発足した。病院管理研修所は厚生省医務局の所管に属するもので、病院の管理に関する調査、研究及び研修を行うことになっている。

日本の病院の状態がいろいろの点で近代病院としての資格を欠いていることが指摘されておつた。その改革の方策



として、GHQのGohnson大佐は、model hospital を具体的に設立して、そこで病院管理者

の教育をすることを日本政府に忠告されておつた。然しいろいろの事情でその実現が困難であつ

たが、Gohnson 大佐の強い支持で、今年の様な新事業の実施が非常に困難な事情下にあるときに不拘、遂に国立東京第一病院を model hospital とし、そこにこの病院管理研修所が併設されることになったのである。

2) 6月1日の開所式の当日は、GHQのGohnson大佐夫妻を始め、東京軍政部のManitov女史、林厚生大臣、葛西次官、東医務局長、久下次長、鹽田博士、高橋日本医師会長、勝保結核豫防会理事長、伊藤日赤副社長、武井済生会理事長、小山東京都衛生局長其の他東京都内の大学其の他各大病院長等150名の病院関係の人々が参集し、盛大にその將來を祝福した。新に病院管理研修所長を兼務されるようになった国立東京第一病院長の坂口康藏博士は、日本の病院管理の改善進歩に研修所が貢献することを誓い、且つ一般の支援を願い、厚生大臣は告辞をもつてこの研修所が設立された所以及びその使命を述べられた。GHQのGohnson大佐は、この研修所が、日本の病院の爲に必ずや貢献するであろうと激励された。來賓代表として鹽田博士は、從來の日本の病院のあり方を回顧し、病院管理研究を強調された。

3) この研修所は全く新しい企畫であり、その道の權威者というものが存在しない今日として、仲々の困難が横たわつている。然し、厚生省は最大の努力をして、その育成を計るだろう。その職員顔ぶれを紹介する。

所長としては坂口博士であり、その医学界、医療界の地位、識見等申分がないことは敢て説明を要しない。主事としては守屋博技官が東一の事実上の管理の担当者を兼ねて、實際と理論を調整されるだろう。氏は外科医と逓信省の医療行政官との経歴及び氏の人格、才能から新しい日本の病院管理の方式を生み出すに努力されることが期待される。所員としては医務局国立病院課の吉田幸雄技官、島内武文技官、医務課の岩佐潔技官、管理課の中村一成事務官等新進氣鋭の士を集めてい

る。講師としては、東京附近のその途の一流者を網羅している。

即ち

医務局長 東龍太郎氏(總論)

東一院長 坂口康藏氏(診療管理)

東一藥劑科長(元東大藥局長)

畑 忠三氏(藥局管理)

聖路加病院長 橋本寛敏氏(看護)

済生会救療部長 千種峯藏氏(医療社会事業)

慶大教授 大森憲太氏(給食)

東一副院長 栗山重信氏(病院サービス)

東大教授 岸田日出刀氏(建築)

国立相模原病院長 本名文任氏(設備)

国立久里浜病院長 岸井誠四郎氏(〃)

医務局看護課長 保良せき氏(看護)

同 医務課長 河野鎮雄氏(医事法規)

同 国立病院課長 小沢 龍氏(病院経営)

同 国立療養所課長

尾村偉久氏(療養所管理)

保険局健保課長 友納武人氏(社会保険)

同 医療課長 宮沢國丸氏(〃)

研修所主事 守尾 博氏(病院事務)

同 所員 吉田幸雄氏(組織、病院医師)

同 島内武文氏(調査統計)

同 中村一成氏(労務管理)

4) 本年度の計画

(イ) 病院管理研修会(短期研修)

病院管理者の再教育の爲行うもの。

1回6日間、講義24時間、研究12時間、

10月から毎月1回開催の豫定。1回50名。

(ロ) 研修科(長期研修)

病院管理を修得する必要があるものの爲に行う。1回2月間。講義85時間、研究107時間、実習192時間。6月、9月、11月、1月に開催の豫定。1回10名。(写真・丸内は挨拶するジョンソン大佐・下は研修所発足の記念撮影)